



8 月 号

待ちに待った真夏の日射し。
子どもたちは
園庭に飛び出す。
砂遊び、水遊びから
どろんこ遊びへと広がっていく。
「わあっ。冷たい。」
「気持ちいい。」
どろんここそ
自分のすみかであったかのように
はしゃぎまわる。

昭和58年8月1日
編集／発行
岡崎市教育委員会



(どろんこ遊び—梅園幼)

つい先達で、いわゆる外孫が二歳の誕生日を迎えた。一人っ子を嫁がせた関係上、私にとっては今のところたった一人の孫というわけである。幸い近くに住んでいるので、私の在宅に合わせて概ね一週間に一度は連れて来る。それが何よりの楽しみである。

孫は少々太めではあるが、健康な男子である。ひたすら孫の健やかな成長を

—教育随想—

出 藍



猪 飼 彰

一夕を共にした折この話をしたら、ちょうどその方も私と同じ形で初孫に恵まれたそう、やはり、お仕事の関係で全国各地を訪問されるたびに、「お守り」を受けて来られるということであった。世の中には同じような考えをする者が多いのか、偶々我等二人がそうしているのかは知らないが、とにかく、その夜は大いに意気

機の上に乗る等々、大人が余りやって欲しくないことばかりをする。普通のオモチャより、車、自転車、時計、テレビ、フロアスタンド、ラジオ、ガス器具などのスイッチ、ダイヤルの類から、ほうきや如露など日常生活の道具類に興味を覚えるようである。また、大人のすることを実によく観察していて、自分もその通りやろうとする。

家に来ると、以前やってみて学習が成立したことは忘れずに一通りやり（これを我が家ではフルコースと呼んでいる）次々に新しい学習を付け加えて行く様子がよくわかる。いつまでもこの好奇心、探究心を（少々困ることがあっても）失わせたくない願っている。

孫の出生は自分の子の生まれた時の何倍もうれしい気がする。これはそろそろ肉体や精神の衰えを感じ始める時期に新しい「生命力」の躍動を血のつながった孫の中に見出し、実感できるからではないだろうか。まさに「血は水よりも濃い」のであろう。よく知られている荀子の、「青出於藍而青於藍」を、亡くなった私の父がもじって、「孫は子より出でて、子よりも可愛らし」といつていたのをふと思い出し、この文の標題にした。

孫が二十歳の誕生日を迎えるのは、ちょうど二十一世紀の歴史の第一ページを開く年である。どんな青年に成長しているであろうか。

（愛知県教育センター所長）

服 装



矢作北中学校長

栗 田 昭 夫

最近の子どもの服装や髪形をみると、なぜ親はこんな格好にさせるのかと首をかしげることがある。男子か女子か見分けがつかない児童もいる。

しかし、よく考えてみると、私も教師がそれを示範しているような服装や髪形をしているような気もする。

スキーヤーみたいな服装で体育の授業をしていたり、チンのような前髪や尻に届くほどの後ろ髪をして得意気な？ 女教師もいる。こんな教師が子どもに服装や水泳帽、給食帽の指導ができるだろうか。近ごろ、教師の服装などについて、さまざまな意見や記事に出合う。他人の言に左右されるのかとかこれが指導に適しているなどと依怙地をほらないで、私を含め、全教師が今一度これらのことについて考えてみる必要がある。私どもには、それぞれの授業や場に即した服装があると思う。まず、体育だけでも子どもと同じような服装になったらどうだろう。

十数年前に教師の指導中水死した児童

折る気持ちで一杯の私は、旅行をするたびに有名な神社やお寺で「お守り」を受けてくるのが習慣になってしまった。目下の所、北は平泉の中尊寺から、南は大宰府の天満宮までであるが、宮崎県へ行った際、鶴戸神宮へ参拝しながら、ついお守りを受けなかったことを悔やんでいる始末である。

投合し、楽しい時を過ごすことができた。孫が帰って、また次にやって来るまでの一週間は、ほとんど毎晩、孫のことが家内との話題になる。娘の幼い頃のことによく覚えていないが、どうも大分様子が違うようである。一口に言えば好奇心に満ち溢れているように見える。叩く、押す、引っ張る、回す、引っ繰り返す、投げる、破るから、最近椅子を使つて

過日、文部省の社会教育局のある方と



打ち上げ花火づくり

三十八年

磯谷 行雄氏

夏の夜に色とりどりの大輪を描く打ち上げ花火——三河花火の中心岡崎で、現在打ち上げ花火を造っているのは、磯谷行雄さんと従弟の磯谷明さんの二工場だけである。

磯谷行雄さんは、磯谷煙火店の三代目打ち上げ造り三十八年の腕前である。

「明治末期までは、素人がつくっていたんですよ。祭があると、村の好きなものが寄っては造り、秘伝として、次々に伝えてきたわけです。うちは稲留流の系統ですが、武田流、一光流、荻野

流などいろいろあるわけです。しかし事故が多発して明治三十五年頃、許可のない人はつくってはいけないことになったんです。」

磯谷さんの工場は、保母町の乙川沿いの山林一町歩の中にある。工場は松平町（豊田市）、伊賀町、百々町と移り変わり、現在地に工場を移したのが昭和三十一年である。

「花火屋というと、戦前はほとんどが打ち上げをやったんですが、戦後は玩具花火が大半になりましたね。うち三代とも打ち上げ一筋、みんな好きということなんでしょう。」

磯谷さんは一年間に大、小合わせて約一万個の打ち上げを造る。

「七・八・九・十の四か月間は消費の月。十月は祭り用だけど、最近は昔みたいに使わなくなりましたね。」

十一月から三月までは皮（がわ）の中に入れる星をつくり、四月からは玉詰めと玉張りをするんです。」

訪問した時、磯谷さんは長島温泉用の打ち上げの玉はりをしていた。皮に何枚かの厚紙を糊付けする。八号であれば、二十五回通りの糊付けである。

「八号というのは、八寸の筒で打ち上げるものことです。これだと二百メートルの所で半徑百メートルの円ができます。丸く開かないのは玉はりがしっかりできていなくて、爆発力が小さくなってしまつたためなんです。」

打ち上げは一つ一つつくっていくので

はなく、数十個をまとめてつくる。「調査する、固める、詰める。始めから仕舞までが手作業です。能率は昔と変わりません。」

人の造った花火をみれば、その細工はわかりますよ。しかし、調査はわからない。どういう色を出すかが一番難しいことであり、一生涯研究です。」

岡崎の花火大会には、西尾、蒲郡、豊田から各一軒、岡崎の二軒、計五軒の打ち上げ業者が参加する。

「自分の思うようなものが出た時が最高の満足ですね。ただ、見る方にとっては、うちの花火ばかりだとおもしろくない。私の個性が過ぎてしまいますから。」この夏も磯谷さんの花火が、夜空に涼風を呼んでくれるだろう。」

住所 岡崎市伊賀町四二七
生年月日 大15・12・13生
職業 磯谷煙火店・花火師



の親が、先日も顔をゆがめて言われた。「水泳を指導されるなら、先生は、せめて水着ぐらいは着てほしい。」

衿を正す

井田小学校

浅井 トミ子

二、三年前だったと思います。ジーンズをはいて講義を受けようとした学生が教授に退室を命ぜられたことが新聞に掲載されました。ジーンズは遊び着です。教室で講義を受けるには、それにふさわしい服装で、という理由だったようです。つまり、服装のTPO（時・場所・場合）をわきまえないと言ったことでしょう。

私は各校を訪問して、家庭科の授業を見させていたのですが、授業をされる方の服装から、まず、その方の授業の判断をします。その授業にふさわしい服装の方は、授業も大変すばらしく、子供たちもきちんとしています。

非行生徒の早期発見の一つに服装の乱れが挙げられていますが、生徒の服装以前に、最近、やや乱れがちな私たち教師の服装を反省したいものです。「ネクタイをして授業に臨みなさい。体育の授業の服装のまま次の授業に出ないように。」二十年前、私たちが校長先生からいただいたお教えですが、このお言葉は現在にも生きていると思います。

きちんとした服装は心を引き締めます。「衿を正して」授業に臨みたいものです。

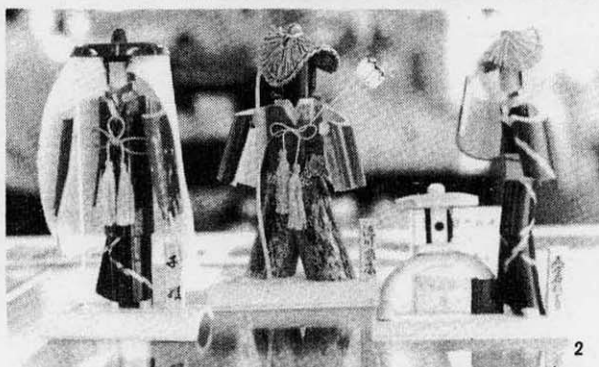
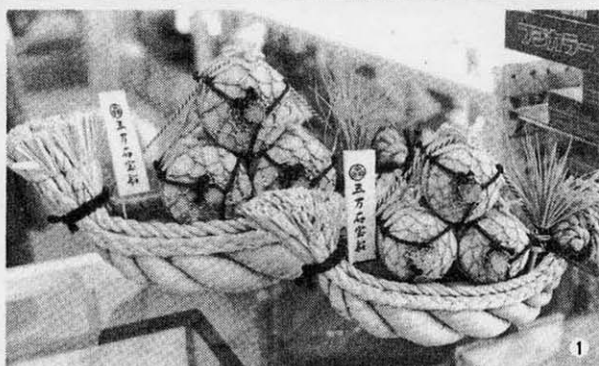


観光岡崎新みやげ

家康ブームにタイアップして、今年四月からオープンした二軒の岡崎市観光協会直営みやげ店。市民からアイデアを募集し、今まで埋もれていた地元の特産品や工芸品を掘り起こして開発した各種のおみやげを店いっぱいに展示して大繁盛である。観光バスが発着する駐車場は、早朝からパンク状態。観光客が、北海道から沖縄まで全国からやってくるという。バスが駐車場にひしめく日曜日の朝、編集者たちは、このおみやげ店を訪れた。忙しい時間を割いて、取材に対応してくださった係の方は、四月以来日曜日も返上しての大奮闘。ここを前線基地に、全国に岡崎市を紹介するのだと、売り子さんたちの教育に余念がないという。

このおみやげ店は、各地の観光地のみやげ売場とは一味違う。この店にある商品はすべて岡崎や三河にゆかりのあるものに限られており、ひとひねりもふたひねりもしてあるオリジナルなおみやげものが多い。お客もなかなか研究熱心で、時々難問が飛び出すという。応対する売り子さんの方も真剣である。

何百種とある商品の中から、特徴のあるものをひろってみた。

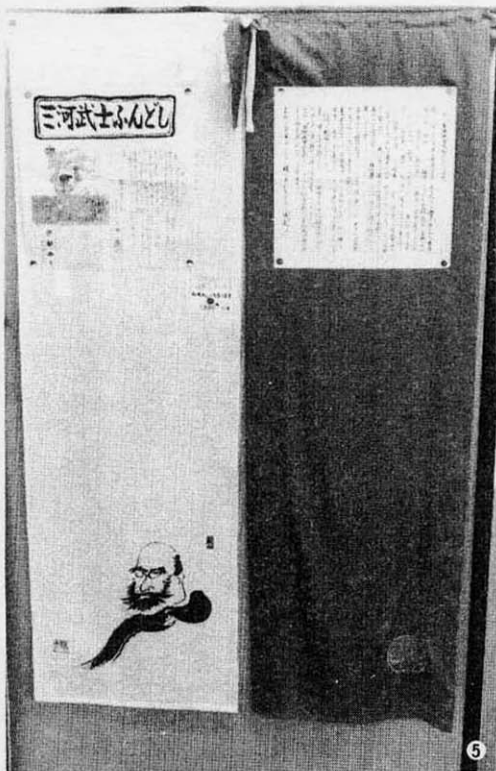




6



7



5



9



8



10

- ① 大門のわら細工、先日来岡した石垣市の親善使節への土産にもなった。
- ② 竹製品の数々。いずれも心こもった手造りの芸術品。材料は市内山間部の竹やぶから。
- ③ 岡崎特産の花火。三河花火は石製品や八丁味噌とともによく知られていて人気がある。
- ④ フタバアオイも山草ブームに乗って大好評。
- ⑤ アイデア商品の数々。これはのれんに変身した鳥居強右衛門血染めのふんどし。
- ⑥ 穂先が耳かきになっている長柄の鎧と長刀。
- ⑦ シイタケの原木は物珍しさも手伝ってよく売れる商品。生シイタケも産地から毎朝直送。
- ⑧ 朝鮮人参は、ゆかりの町白田町から出品。
- ⑨ 親善都市石垣市から出品されたカラカラ。
- ⑩ さすがブームで家康関係のものが多い。ゆのみ、ちょうちん、こま……。大河ドラマに刺激され、売れゆきは上々とか。

僕満点とったよ

矢北小 萩原 学

「先生、M君今日も休んだよ。」
 「どうしたんだろうね。」
 「M君昨日広場で遊んでたのに……。」
 「風邪でもひいたのかな。」

六月に入ってからM男の欠席が目立つ。家庭からは、腹痛とか風邪という連絡はあるが、少し様子が変である。

彼は日ごろから口数が少なく、口やかましい盛りの三年生としては、やや物足りないという程度に思っていた児童である。

ある朝、
 「先生、さっきM君がお母さんと一緒に来たけど、また、帰っちゃったよ。」
 「お母さんに叱られてたけど、
 『やだ/やだ/』って泣きな



がら帰っちゃったんだよ。」
 電話で母親の様子を尋ねると、

「S男がいじめられる」とか「友達がいけないからつまらない」と言っているようであった。心配していた通りの登校拒否である。

今までも登校拒否の児童はいたが、原因は母親の過保護によりわがままに育ってしまい、集団生活がうまくできないことが多かった。彼の場合も同様でクラス編成により、二年の友達と離れてしまい、新しい仲間にもうまく溶け込めなかったためである。

早速学級会を開き、彼の言いつらについて話し合ってみたが、特にいじめの子もいないようであった。そこで、彼を立ち直らせようと、全員が毎日話しかけることに決まった。

翌朝、何とか登校して来た彼は「おはよう!」

とみんなから声をかけられ、少々戸惑いもあったが、少しずつ笑顔を見せるようになった。それから十日ほどたった長放課、彼が私の所へやって来て、恥ずかしそうに、
 「先生/僕満点とったよ!」

と、小さな紙片を見せた。毎日行っている十間の書き取りテストである。休み勝ちなときは二三問しかできていなかったが、最近では家庭学習をし、遂に満点を取り、その喜びを私に告げに来たのである。

級訓の「思いやり」を学級全員が実行し、彼を救ってくれた。まだまだ問題点の多い学級ではあるが、大変楽しみな組である。

教育日々



大きな自信へ

矢作幼 天野 和代

入園して二か月余りが過ぎた。
 「先生、おはよう。」

と、元氣よく保育室へ入ってくる子どもたちの顔には、入園当初の硬さは消え、今日は何して遊ぼうかと期待を持って登園してくるようである。また、友だ

ちの存在も少しずつ確立されてきて、登園してくる友だちに声をかけて走り寄っていったり、自分の方が早ければ廊下で友だちを待つ光景をよく見かける。

そんな六月のある日、H子が「先生、もう少し慣れたら私たちで給食当番するんでしょう。」と、突然尋ねてきた。その時は「そうね。またやってみようね。」と答え、詳しい説明は特にしなかった。

数日後、当番のバッチに触れながらH子とS子が話をしていった。

H子「わたし、カンガルーグループだもん。」

S子「わたしはキリン。」
 それだけの会話だったが、当番をやりたいという気持ちが十分伝わってくる。そして、その日を境にして二人、三人とバッチのところへ集まる子どもが増えてきた。そこで、子どもたちと話し合ってみようという事になった。当番になった子どもは、あこがれのバッチをつけて未知の事柄に挑戦していく。

しかし、それまで年長児が配膳してくれた

のをよく見ていたのだから、実際の良さに驚かされることも度である。中には、

「A君、牛乳のピニールがとってないよ。」と教える子どももあるほどである。配膳し終えた子どもは満ちあふれ、他の子どもたちは「明日はお当番をやろう」という気持ちを表している。

年長児の様子を見て「やってみよう」「まねしてみよう」という気持ち芽ばえ、それをやり遂げた充実感が一つの自信となっていくのではないだろうか。また、当番活動を通じて子ども同士のつながり、仲間意識が育っていくものと思う。

当番活動を強制的に行うのではなく、個々をよく見つめながら活動を展開し、その中で得た自信を遊びの中へ反映していけるよう配慮していきたい。



相談者 件数	小学生	中学生	親			計
			小	中	高	
52	109	37	37	11	246	
%	21	44	15	15	5	100

心の電話おかぎきは、今日七日で二周年を迎えます。去年の六月七日から今年六月六日まで十二か月間の相談件数と相談者別件数は上の表の通りです。

やはり、悩む中学生像というのが浮かび上がってきます。

月別の相談件数では、新学期が始まる四月がきわ立って多くなっていますが、六月、七月にも結構相談してくる中学生が多いようです。

心の電話おかぎき二周年

相談内容は、この一年それほど変化はありません。

○小学生の場合
新聞などで報道されるように弱い者いじめに悩んでいる子供たちが岡崎にもいます。先生方の心くばりもつと必要だと思えます。また、異性の友達のことでも悩む子供もいるというのを知ってください。

○中学生の場合
なんとと言っても、部活の縦の関係に関する相談が多いのです。とくに、入学したばかりの四、五月、一年生は困っていることが多いようです。

ここへの相談では、学習のことよりも、異性のこと、非行のことなどについての悩みが多いことも特徴です。



【寄贈刊行物・資料等】

- ◆子どもにすすめる科学読み物 B 6 五六ページ 図書館部
- ◆指導の手引 第七集 教科指導員の会 A 5 八五ページ
- ◆学校図書館運営諸規定 広幡小 B 6 四四ページ

- ◆三十五年の歩み 福岡小父母教師会 A 5 五八ページ
- ◆自然とともに 少年自然の家利用委員会 B 5 孔版印刷
- ◆子どもとつくる楽しい授業 B 5 理科授業研究サークル
- ◆はじめの一步 新任教師の会 B 5 孔版印刷

昭和58年度岡崎市教育研究論文の募集要項

○部門

(1) 第1部門 個人研究

(2) 第2部門 共同研究

○字数

四百字詰原稿用紙(B4判)三十枚以内。表・グラフ・写真

真は本文に含める。

○提出期限

(1) 中間報告書 9月2日

(2) 研究論文 12月1日

○提出先

岡崎市教育委員会学校教育課

○表彰

最優秀賞・優秀賞・佳作

■国立ブルガリア少年少女合唱団演奏会

七月二十六日、市民会館においてブルガリア少年少女合唱団の演奏会が行われた。岡崎のハーマニーも共演をし、華を添えた。

昭和58年度 夏期実技講習会

教科・領域	期日	場所	人数
書写	8・3	岩津市民センター	45
社会	8・3	巽閣・現地学習	40
算数	8・2	東部市民センター	50
理科	8・2	藤川小学校	60
音楽	8・3	六ツ美中部小学校	50
図工・美術	8・2	愛知青少年公園	55
技術・家庭	8・3	城北中学校	40
家庭	8・3	大樹寺小学校	40
英語	8・2	甲山中学校	40
特殊教育	8・3	矢作市民センター	40
視(聴)覚(VTR)	8・2~3	連尺小学校	50
図書館	8・3	福岡小学校	50
保健	8・3	岡崎市役所	50

■県教育論文締切迫る

・字数 一二、〇〇〇字以内

・提出期限 八月二十七日(出)

・提出先 市教委学校教育課

・表彰 最優秀賞・優秀賞

・佳作・参加賞

■山中小・竜美丘小全国大会へ

バレエボール男子で山中小、

女子で竜美丘小が、来る八月十五日から東京で開かれる第三回

全日本バレエボール小学生大会

に出場する。



ヒヤスリ展 8月20日(出)~9月4日(閉) 岡崎市美術館

入場料 一般500円(400円)・高大生300円(200円)・小中生50円 ()内は割引入場料金

点



力丸塚

所在地一岡崎市下佐々木町

三河一向一揆の根拠地の一つ
佐々木上宮寺。昔は立派な本堂
が田畑の中にそびえ、どこから
もよく目立ったが、今では石工
団地にお株を取られた感じがす
る。

上宮寺からしばし南下すると
上佐々木の部落が切れて田んぼ
道となり、三棟並んだ長屋があ
る。長屋の南東隅の道端に雑木
の小さな茂みがあり、その陰に、

自然石に素朴な文字で力丸塚と
彫られた一メートルほどの石碑
がある。隣には墓塔の一部と思
われるものも残っており、花筒

もいけてある。力丸というから
何か力持ちの墓なのだろう。
話は上古にさかのぼる。

佐々木上宮寺は聖徳太子が開

かれたというが、太子が上宮寺
へおいでになった時、お召しの
牛車につたかずらからまわり、
動けなくなりました。そこ
に一人の力持ちの男がやって来
て難なく牛車を持ち上げ、から
んだつるを断ち切って太子の難
儀を救ったという伝説がある。
この男が力丸である。

矢作の市に番買いに……、往
古のにぎわいの中に一躍英雄と
なった力丸は、その後どうなっ
たのか……。

真偽のほどはわからないが、
これが彼の墓であるといわれて
いる。

●カ
ツ
ト
矢北中
原田雅文

この本を

- * うつくしい言葉 宇野 信夫 1,000円
講談社
- * 子どもを学校から守る法 岡田 春生 730円
ごま書房
- * まり子の目子どもの目 宮城まり子 980円
小学館
- * 草柳大蔵の礼儀と作法 草柳 大蔵 1,200円
グラフ社
- * 異国ニッポングラフィティ 菊池 雄介 980円
J A I E C 出版
- * 教えることと学ぶこと 林 竹二・灰谷健次郎 980円
小学館
- * 佐川君からの手紙 唐 十郎 980円
河出書房新社
- * 校内暴力の克服 川上 敬二 1,000円
民衆社
- * 日本の名随筆(1) 花 宇野 千代 1,200円
作品社
- * 問の研究 南 博 1,300円
講談社

「男らしさ、女らしさ」が消え失せて
しまったという言葉をよく耳にする。

頭髮、言葉使い然り。服装や日常生活、
家庭生活を見ても、確かに区別がしにく
くなってきている。

古いといわれるかも知れないが、やは
り、男は男らしさ、女は女らしさが
欲しいと思う。



「少しでもいいから、「このみやげは
こういいうわれのあるものだよ」と
一つ一つのものに、はくぐをつけて、近

アリの行列……。
アジサイの葉陰から、庭球コートの隅
を通って岩組の中へ続く。
暑さにめげずにせこせこ歩く。
あちらでは陸上部の生徒たち。
汗もぬぐわず、フィールドの周りを何
周も、ただ黙々と走る。
暑さに負けてはおられない。

「塩っからいよ。先生。」
「皮をむくとちようどよくなるぞ。」
「うわっ。ほんとうだ。うまい！」
ゆとりの時間を利用しての学年ジャガ
イモ作りは、ジャガイモ会食で幕……。
「ぼく、小学校の家庭科はCだった。」
とつぶやく三年担任の新任男性教師は、
子供と共にイモをほおばることしきり。

その「はくぐ」をつけるための知識の源は
ほとんど小学校の頃に学んだことだそう
だ。改めて義務教育の重要さを痛感した。